

予 算 要 求 資 料

令和3年度9月補正予算

支出科目 款：土木費 項：道路維持修繕費 目：道路維持修繕費

新 事業名 道路施設点検費（新技術活用）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

県土整備部道路維持課維持管理係 電話番号：058-272-1111（内 3738）

E-mail： c11657@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 41,000千円（前年度予算額： - 千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	41,000	0	0	0	0	0	0	0	41,000
決定額	6,000	6,000	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

各務原市内にある一般県道松原芋島線「川島大橋」において、橋脚に異常を確認したことから、令和3年5月28日より通行止めを開始している。

橋の変状の主な原因として、専門家からは「顕著な河床の洗堀が発生したことにより、橋脚が支持地盤を失ったため」との見解が示されている。

川島大橋以外の県が管理する橋梁において、同様の事象の有無について緊急点検を行っているところである。全国トップクラスの施設数を管理する岐阜県において、水中の不可視部に関する点検方法、及び点検を行う技術者不足や作業の効率化が課題となっている。

（2）事業内容

道路施設の近接目視による点検が困難な作業について、水中部の調査に水中ドローンや超音波などの新技術を活用することにより、業務のデジタル化（DX）を推進し、コロナ禍における効率的な維持管理を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

国の地方創生臨時交付金を活用し、県負担を軽減する。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
機材購入費 (備品購入費)	11,000	各土木事務所にて水中ドローン等調査機器の購入
施設点検費 (委託料)	30,000	水中部の調査が必要な県管理橋梁の約 100 橋の点検費
合計	41,000	

決定額の考え方

機材購入費については、事業内容を精査し所要額を計上するとともに、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充当します。

施設点検費については、計上を見送ります。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の点検・修繕などを実施。

(2) 国・他県の状況

川島大橋の事象により発生した状況は、橋梁の安全度について国の専門家からは、「困難な事案であり、待ったなしの状態である」との指摘を受けており、全国的にみても、橋脚の局所洗堀を受けた事例は少ないと評されている。

国の点検要領においても、橋脚の基礎など水中部に関する点検は明確化および必須化されていない。

(3) 後年度の財政負担

「岐阜県橋梁点検マニュアル」を令和3年度中に改訂し、水中部の点検の明確化を図り、定期点検において継続的に実施。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：岐阜県（県の管理する橋梁に限るため）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 橋脚を有する橋梁のうち、水中の不可視部がある橋梁約100橋について、令和3年度内に新技術を活用した点検を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
	(H)	(H) (H)	(H)	(H)	%
	(H)	(H) (H)	(H)	(H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

本事業は、本年度中に緊急点検を実施し完了予定であるため、指標設定することは困難である。

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

 前年度実績なし

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

 前年度成果なし

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か) ○ : 必要性が高い、△ : 必要性が低い	
(評価) ○	川島大橋に発生した橋脚の異常は県で発生した事案であり、周辺住民の生活環境に大きな影響が出ていることから、類似の事案を早期に発見し対策を行う観点から、本事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) ○ : 概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△ : まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	橋脚の基礎部を実際に確認することで、橋の安全性を確認することができる。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) ○ : 効率化は図られている、△ : 向上の余地がある	
(評価) ○	水中の不可視部における調査方法に新技術を活用することにより、点検作業の効率化が期待できる。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 点検の結果、対策が必要と判断された場合、対策に必要な設計・工事の予算が追加で必要となる。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 橋梁等の重要な社会インフラは、継続的に点検・修繕を行い、施設の健全性を保つ必要があるため、本年度中にマニュアルを改訂し、水中の不可視部の点検方法を明確化することで、今後の適切な維持管理に努める。
--